

八幡平いにしえの宝

(市内にある指定文化財を紹介します)



さひないやまかみ 佐比内山の神

所在地：佐比内74番地
指定年月日：平成12年1月4日(旧安代町指定)

市を特徴づける生業に山仕事が挙げられます。先人たちは春木、木地引き、炭焼き、マタギなど、古くから山の恵みに感謝しながら営んできました。市内には、たくさんの山神社が祭られ山の神も安置されています。この田山地区佐比内山の神像は、総高104cmの一木造で桂材です。髪を烏帽子状に逆立て、憤怒の表情を表した明王像で、手に斧を持ち岩座に立ち裸形の上半身に左肩から条帛と腰裳を付けた様子は、仏像から神像へと移行過程を示す珍しい男神像です。荒ぶる神をかたどることで、自然に対する恐れ敬う山びとの祈りが伝わります(注1)。

(注1) 昔は、12の付く日が祭日といわれ、現在の12月12日または1月12日に祈願祭や仕事を休むなど慣習は残っている地域もある。

《参考文献》安代の自然と文化(岩手県立博物館1987年)

【広告】この広告は、広告主の責任において市が掲載しているものです。広告の内容について市が推奨などをするものではありません。

企業広告スペース

※広報はちまんたい1月6日号(No.119)の印刷経費は1部39.9円(税込み)です。経費の一部は広告料で賄われています。広告掲載【本号】については、㈱岩手広告社(☎019-623-3777)まで。



古紙を配合した再生紙を使用しています